

2023年度 第10回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

日 時 2024年2月26日(月) 10:00~11:50

会 場 本部棟大会議室(オンライン併用開催)

出席委員 田中理事長、星副理事長、磯田理事、伊藤理事、荻野理事、岡島理事、佐野監事、中野監事

出席教職員 林副学長兼学部長、田口学長補佐兼地域産学連携センター所長、福田副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、山口企画・情報担当部長

【オンライン】

金村研究科長、常盤学生支援センター長、濱口研究開発センター長、延原情報センター所長、東高等教育開発センター長、滑川保健センター所長、山口高等教育開発センター副センター長、北畠地域産学連携センター副所長、田中共通教育科長、國澤看護学科長、山崎理学療法学科長、久保田作業療法学科長、河村社会福祉子ども学科長、廣渡健康開発学科長、濱口財務担当部長、酒井施設管理担当部長、小原教務・入試担当部長、関根研究・地域産学連携担当部長 今村学生・就職支援担当部長

議事概要 ○：学外理事、監事 ●：学内理事、事務局

【議事録確認】

理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

議決事項

第18号議案 センター組織等の見直しについて

資料に基づき、伊藤副学長から説明した。

案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

○IPEアドバイザーは、①候補者の目星はあるのか。②処遇はどのようになるのか。③会議は何回程度予定しているか。

●①アドバイザーは現場の方で10名程度を予定している。②会議の回数に応じて謝金で対応を予定している。③年間3～5回程度の会議に出席いただく予定である。

○センターに所属する教員の評価は自己評価にはならないという理解でよいか。

●センターに所属する教員は、学部や大学院が本務の者と、センターが本務の者というが、センターが本務となる教員はセンター長が評価する。センター長は、また別の上司となる者が評価する。

○良い方向での改正と評価したい。

○規程の改正は、本来整備すべきものが整備されていなかったということなのか。

●例えば、業務規程については、センターの裁量や権限により行っていたものを明示するため、また、センターにより規程の有無にばらつきがあったことから改善するものである。

○細かい規程まで理事会で議論すべきか。規程の整備にあまり労力をかけるべきではないのではないか。

●理事会の議決事項は、定款に、「重要な規程の制定・改廃」とあり、この「重要な規程」について、過去の理事会において申し合わされていることから、今回理事会に諮ったものである。理事会に議論すべき事項については、適宜見直してまいりたい。

なお、規則や規程の下には、細則や要綱、ガイドラインもあり、これらは理事会には諮っていない。その他、詳細まで規程を定め自縄自縛になってしまうのではないかという意見もあったが、ガバナンスの観点からは、一定程度は規程を定めておく必要があると考えている。

第19号議案 センター組織見直し等に伴う法人規則等の改正について

資料に基づき、高柳調整幹から説明した。

案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

○附属施設の位置づけをやめることになるが、違いは何か。

●大学設置基準においては、図書館や医務室は校舎等施設として大学に必要な施設として位置づけられており、附属施設は、附属病院や農場など、特定の教育研究に必要な施設として位置づけられている。制定当時は、建物が別にあったことから附属施設としたと推察されるが、今回は機能としてのセンターと明確に示すため、附属施設としての位置づけから外すこととしたものである。

○委員会は、どういう機能を持つものなのか。センターとの違いは何か。

●それぞれのセンター長の業務を補完する機能として位置づけられている。

第20号議案 教員の採用について

資料に基づき、星学長から説明した。

案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

○自己都合の理由は聞いているか。

●臨床の場に戻るということで聞いている。

○育休代替教員の採用が遅れたのは、育児休業の申請が出産後にしか行えないという制度上の理由によるものか。

●育休の申請は本人の都合もあったと理解している。また、他の案件も退職希望が年末にあったことから、4月に間に合わず6月になってしまったものである。

○退職により、学生の教育に影響はないのか。

●カリキュラムを調整するなど対応をする。今回の退職は助教であり科目をマネジメントする立場にないので、大きな影響はないと考えている。

第21号議案 令和6年2月修正予算(案)について

資料に基づき、福田副局長から説明した。
案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

- 目的積立金の取崩収入の「2、学内システムの強化・見直し」について財源振替とあるがどうか。
- 情報システム機器のリース費用について、当初は目的積立金を充てていたが、経費の節減に努めた結果、一般財源の自己収入の範囲内で執行できることから、目的積立金から自己収入に財源を振り替えるということである。

第22号議案 教員配置計画(案)について

資料に基づき、福田副局長から説明した。
案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

- 「特定分野に必要な人員の確保については、引き続き外部資金の導入を目指す」とあるが、外部資金で人件費を賄うことはこれまでもあったのか、または今後充てたいということか。
- これまでも大型の外部研究費を獲得した場合、事務局以外の事務職員や特任助教を採用した例がある。
- その場合、研究期間が終了した場合は、雇用が終了するということか。
- ご認識のとおりである。

報告事項

(1) 令和6事業年度 業務運営に関する計画(案)について

資料に基づき、福田副局長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- 計画本文を読むと、今やっているのか、今後やることが判別できない。例えば、資産の適切な管理について、取得金額が高い備品を中心に現物確認を進めるとあるが、これは当然に取り組んでいるべきものであり、新たに取り組むとすれば、逆に問題である。文章の書き方を工夫していただきたい。
- 年度計画は中期計画の実行を示すものであり、年度の取り組みに大きな変更はなく、例示いただいたものは従前から実施している。例えば、各項目の冒頭に“新”の文字を入れるなど、分かりやすいよう表記したい。

報告事項

(1) 自己点検・評価の実施及び認証評価の受審について

資料に基づき、伊藤副学長から報告した。

(2) 2023年度埼玉県立大学卒業式及び大学院修了式について

資料に基づき、今村学生・就職支援担当部長から報告した。

(3) 研究開発センターシンポジウム2023について

資料に基づき、濱口研究開発センター長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- 時間数の表示がないが、どれくらいになるのか。
- 視聴時間は2時間弱となっている。30分程度のコンテンツごとに分割して視聴できるようになっている。

以上